

フルタイムだけじゃない！ コスト削減と人材確保を両立する「短時間派遣」という新選択

樽本 創



「ピンポイントでこの時間帯だけ手が足りない」「フルタイムの募集を出してもなかなか応募が集まらない」といったお悩みを抱えていませんか？

人手不足が深刻化する製造・福祉現場において、今注目されているのが「短時間派遣」の活用です。必要な時間帯に絞って人材を導入することで、現場の負担軽減・業務効率化と大幅なコスト削減を同時に実現できます。

短時間派遣が現場の課題を解決する2つのアプローチ

① 残業時間帯に絞った派遣（安全・品質教育&シフト管理もおまかせ）

「日中の通常業務は回っているけれど、夕方からの残業時間帯だけ負荷が大きい」という現場におすすめの活用法です。

● 割り増し料金が発生せずコストパフォーマンス抜群

自社社員に残業をさせると25%増等の時間外手当が発生しますが、残業時間帯のみをカバーする派遣スタッフを導入すれば、**通常（基本）単価での運用が可能**となり、割り増し費用が発生しません。

● 入社前の「安全・品質教育」もシナジーが代行

短時間スタッフであっても、現場での事故防止や品質管理は不可欠です。シナジーでは**入社前の安全教育や品質教育を自社でしっかり実施してから派遣**するため、現場で一から指導する工数を大幅に削減できます。

● 複雑なシフト作成・調整まで丸ごとおまかせ

「短時間スタッフを組み合わせるとシフト調整が大変そう……」という心配も無用です。シフトの作成や調整は**シナジーが責任を持って受け持ちます**ので、現場管理者の管理負担を増やすことなくスムーズに導入していただけます。

② 扶養内派遣（地域特性を活かした人材獲得）

「フルタイム勤務は難しいけれど、扶養内で家庭と両立しながら働きたい」という主婦（主夫）層ターゲットの求人は、非常に高い応募効果を発揮します。

● ターゲット層に響く条件設定で応募数が大幅UP

勤務時間を短時間・扶養内に限定することで、これまでフルタイムの求人ではアプローチできなかった幅広い層へアプローチが可能になります。



● 東広島エリアの地域特性にジャストフィット

特に**東広島エリアは子育て中のファミリー層が多い地域**です。「子どもの学校や幼稚園の合間に働きたい」というニーズと合致しやすく、優秀な人材の獲得・確保を非常に効果的かつスムーズに進められます。

まとめ：「必要な時に、必要な分だけ」で現場もコストも最適化

「人材派遣＝フルタイム」という固定観念を捨てることで、これまで諦めていたピンポイントな人手不足の解消や、人件費の最適化が見えてきます。

● 残業代のコストを抑えつつ、現場の教育・管理工数も減らしたい

● 東広島の地域特性を活かして、優秀なパートタイム人材を集めたい

こうしたお悩みをお持ちの企業様は、ぜひ一度シナジーの「短時間派遣」をご検討ください。事前教育を受けた即戦力スタッフと最適化されたシフトプランをご提案いたします。

安芸西条郵便局

料金後納

ゆうメール

採用の専門家がお届けする経営マガジン

@ シナジー

for EXECUTIVE

項目	現行	2026 年 10 月 11 日から
広島県最低賃金	1,085 円	1,141 円（+56 円、5.2%）
全国加重平均	1,121 円	1,177 円（+56 円）
全国の最高／最低	東京 1,226 円／1,023 円	1,280 円／1,085 円

※金額は広島地方最低賃金審議会の答申（2026 年 8 月 17 日）に基づく見込みです。
発効日は異議申出の状況により変わる可能性があります。

広島1,141円。2030年目標の 最低賃金の1,500円は見送り

朝晩は少し涼しくなってきましたね。今年もあと3か月かと思うと、ちょっとですね。10月11日から、広島県の最低賃金が1,141円になります。今の1,085円から56円、5.2%の引き上げ予定です。全国の加重平均は1,177円です。6年連続の引き上げで、10年前と比べると4割以上上がりました。

数字を眺めながら、毎年気を引き締める思いですね。2年前に石破さんが2030年に最低賃金目標を1500円と言っていましたが、今回見送りにになりましたね……先日、経営者仲間との勉強会でもこの話になりました。誰かが「賃上げに耐える方法は、値決めと決める速さしかない」と言っていて、妙に納得してしまいました。人件費が毎年上がる前提なら、去年と同じ速さで判断している会社から先に苦しくなります。

私自身、そこで詰まっていました。打ち合わせを2時間やって戻ると、通知が20も30も溜まっています。以前はその一つひとつを「もう少し情報を集めてから決めよう」と横に置いていました。あるとき社員から「あの件、どうなりましたか」と聞かれて、自分が止めていたのだと気づきました。手は動かしていたのに、会社は進んでいなかった。情けなかったです。

だから今は、自分の手元にボールを残さないことを一番に置いています。それをするには……悩む時間があるならその場で決められる状態をどう作るか。それをするには、情報への感度が大切です。決めるには材料が要るので、日々どれだけ拾えているかが効いてきます。そして最後に、朝令暮改を恐れないこと。言うことが変わるのは聞く側にはストレスですが、変えられる会社のほうが強いと思っています。

前提条件として気分朝令暮改をしないことが大事です。情報の感度を高く持っておけば情報が変われば判断も変わります。そちらも踏まえて事前にメンバーに伝えておくことが大事だと思います。

それが判断を早く自分の手元にボールを持たない効果的な方法だと思います。

執行役員 小濱 亮介

今月のLINEUP！

- ▶

業務のお悩み相談室
【5年後生き残るために】
AI未導入企業へ贈る！メール作成激変&情報自動収集の第一歩

小濱 亮介
- ▶

「問題ない」の奥にある声を引き出す

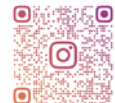
藤原 幹雄
- ▶

バックオフィスチームの取り組み
「文章を頼むAI」から「デザインも任せるAI」へ
～GPT-6の画像生成を実際に使ってみた～

井上 陽菜
- ▶

採用担当の皆様へ
フルタイムだけじゃない！
コスト削減と人材確保を両立する「短時間派遣」という新選択

樽本 創



【5年後生き残るために】
AI未導入企業へ贈る！メール作成激変&情報自動収集の第一歩

執行役員 小濱 亮介

AIはまだ難しそう、専門家じゃないと使いこなせないと思って、導入に踏み出せない企業様は多いのではないのでしょうか。

実際「何から始めればいいのかわからない」という不安から、一步を踏み出せていないケースも少なくありません。

実は、生成AIは今日から誰でも使える身近な存在です。例えば、1件5分×30件で2時間30分かかっていたメール返信作業も、AIを使えば数分に短縮できます。

さらに、自分の仕事に必要な情報を自動で収集する仕組みを作れば、ニュースを探す手間すらなくなります。専門部署を持たない中小企業こそ、まず触ってみるだけで大きな生産性向上を実感できるはずです。

物価上昇や急速な社会の変化が進む今、「忙しいから」と後回しにすることは大きなリスクにもなり得ます。ショート動画を見る時間を少しAIに使うだけで、5年後の会社の姿は大きく変わるかもしれません。

まずは小さな一歩から、AIに触れてみてはいかがでしょうか。



この内容についてさらに詳しく知りたい方は、こちらの動画をご覧ください。
<https://youtu.be/tJhHHT8JK9A>

QRコードはこちらから▶



藤原 幹雄

「問題ない」の奥にある
声を引き出す

その背景には、支援担当者を「会社側の人」「自分を評価する人」と捉え、率直に話しにくい人間関係があります。大切なのは、質問を繰り返すのではなく、安心して話せるきっかけをつくることです。

例えば、他の外国人が実際に困った事例や、支援担当者自身の失敗・悩みを紹介してみましょう。具体例があると自分の状況と結び付けやすくなり、「実は私も……」と話し始めるきっかけになります。

日頃から雑談を重ね、相談しても不利益にならないと伝えることも重要です。「ない」という言葉だけで判断せず、その奥にある声に耳を傾ける姿勢が、問題の早期発見と信頼関係の構築につながります。



特定技能外国人への支援で、「何か困っていることはありますか」と尋ねても、多くの場合、返ってくるのは「ありません」という答えです。もちろん本当に問題がないこともあります。しかし、言葉の壁や遠慮から言い出せない、あるいは何を相談してよいのか分からないケースも少なくありません。

「文章を頼むAI」から「デザインも任せるAI」へ
～GPT-6の画像生成を実際に使ってみた～Back office team efforts
井上 陽菜

シナジー支援部でも日々活用しているChatGPTですが、2026年9月にOpenAIから発表された最新モデル「GPT-6 Astra」では、画像生成の機能が格段に進化しました。今回は、支援部で実際に業務で使ってみた事例とあわせてご紹介します。

何が変わった？GPT-6の画像生成

これまでも画像生成はできましたが、「文字が崩れる」「イメージと微妙に違う」など、そのまま業務で使うには一歩足りない場面がありました。

GPT-6では、指示の意図をくみ取る力と視覚的な判断力が大きく向上し、レイアウトの整った“実務でそのまま使える”画像を作れるようになっていきます。

実際にやってみた：28卒採用のSNS用チラシづくり

今回は、28卒採用のSNS告知用チラシを実際に作成してみました。流れはとてもシンプル。イベント概要（日時・対象・伝えたい内容）を、そのまま文章で打ち込むだけです。

1 イベント概要を打ち込む

2 デザイン案（パターン）が生成される

最初に生成された案（修正前）



3 気になる部分を言葉で伝えて修正

「文字をもっと目立たせて」「色味を変えて」など

4 最終案の完成！



どんな風に指示を出す？

背景の雰囲気を変える —— 指示はこんな感じで



役員が話すライブみたいなイメージかも

記載している文字を変える —— コメント機能で該当箇所をクリックし、変更内容を入力するだけ



自社のロゴを入れる



右上のシナジーのロゴをここにしてください。

使ってみて感じたこと

デザインの知識がなくても、概要を文章で打ち込むだけで“たたき台”が数分で手に入りました。何より画像のクオリティが高く、文字を変更しても他の部分のデザインが崩れないのが本当に便利です。一方で、日時や名称などの事実確認、自社らしい表現への調整は、やはり人の目が欠かせないと感じました。

まずは身近な制作物から

告知画像やチラシなど、社外に向けた発信物と相性の良い機能です。「有料でも完成度の高いものを作りたい」という場面では、使ってみる価値は十分にあります。まずは身近な制作物から、「これ、AIに任せられないかな？」を試してみてはいかがでしょうか。